

## 「活動の概要と研究成果」

NO.J2401

活動題目:オスマン帝国におけるフランシスコ会の活動:クレシェヴォ修道院所蔵オスマン語文書群(18-19世紀)の研究から

所属:上智大学アジア文化研究所

氏名:佐治 奈通子

本研究は、ボスニア・ヘルツェゴヴィナの聖カタリナ修道院(以下、クレシェヴォ修道院)におけるオスマン語文書群を調査・再整理し、その歴史的意義を明らかにすることを目的としている。1年目の調査では、修道院アーカイブの再整理を行い、本文書群が1,620点のオスマン語文書を中心に構成されていることを確認した。それらは1856年改革勅令原本や租税免除継続を訴える報告書など、歴史的重要な持つ多様な文書を含んでおり、未研究の史料群として掘り起こす意義を確認した。

2年目の調査では、クレシェヴォ修道院の所有地に関する史料49点を入手し、同修道院がオスマン帝国期からオーストリア＝ハンガリー帝国期にかけて遠隔地を含む広大な土地を所有していたが、1947年農地改革以降に大部分を喪失した経緯を確認した。併せてサラエヴォ大学の専門家との共同研究を開始し、文書裏面に記されたボサンチツァ古文字を解読した結果、オスマン語記録には現れないフランシスコ会的世界が描かれていることを見出した。また国立図書館でボスニア・フランシスコ会関連史料を収集し、研究基盤を拡充した。また、イスタンブールの大統領府オスマン文書館において、勅令、修道院帳簿、ムカーター台帳などを含むクレシェヴォ修道院関連の史料68点を収集した。修道院所蔵の地方伝来文書と中央政府保管文書を照合することで、クレシェヴォ修道院やボスニアのカトリック修道院のオスマン帝国史における位置付けを解明する手がかりを提供する。

以上により、対象文書群の基礎的情報の補強、共同研究体制の確立、関連資料の収集が進展した。今後は、カタログの充実化、共同研究の深化、さらにイスタンブール文書との突き合わせを通じて成果を論文化し、博士論文として結実させる予定である。